



今回は **SGH リサーチツアー「関市内の刃物工場見学」** についてお伝えします。

◇ 関市の刃物生産、2つの姿

9月30日の期間休業日を利用し、ドイツのゾーリングに本社があるツヴィリング J. A. ヘンケルス ジャパン 関工場と、1896年創業、代々関市で刃物生産（現在は工業用機械刃物の製造販売）を行ってきた福田刃物工業の2か所を見学しました。かたや世界を視野に最新のシステムを導入して製品づくりを行う工場、かたや地元で根差しながら新たな工夫を凝らしてしっかりと業績を積み重ねている工場。刃物工場とひとくくりにはできない全く異なるふたつの姿を見ることができました。



ツヴィリングヘンケルス関工場

◇ 生徒の感想

ツヴィリングヘンケルスでは包丁作りの作業工程を見せていただきましたが、作業は効率よく、各人が得意なことをうまく出来る作業をやっていくスタイルでした。包丁の試し切りもさせて頂きましたが、素晴らしい切れ味でした。

福田刃物工場では、社長の福田さんの経営方針がしっかりしており、全員正社員というに感銘を受けました。今の時代、そのような会社がまだ残っていることに驚きました。

廣瀬朱里



福田刃物工業

今回の見学では、刃物のことはもちろん他のことについても学びました。

ヘンケルスでは、刃物だけでなく他の家庭用品にも進出していることに驚きました。刃物についてもこだわりを持ち、高価なものから安価なものまで多くの人に対して真摯に売ろうというところがいい企業になる秘訣だと思います。

福田刃物については、100%正社員というところに驚きました。社長の考え方も一般的なものとは違うところがあって色々学びました。僕は社長さんの「商売は儲けるためだ」と言う考え方がとても好きでした。営業を自前で行いしっかり相手を見つれたりすることで、関の刃物産業を発展させていけば、より良くなると感じました。

太田弦志



ツヴィリングヘンケルスでの、包丁の試し切り

今までは関の刃物工業は昔からの伝統的な作り方を引き継いで職人が作っているイメージしか無かったけれど、伝統を守りながら買う人の求めているものをどうしたら作れるか考え、新しい技術を展開することが重要なのだとわかり、イメージが大きく変わりました。どちらの刃物工業も、トップレベルの技術を誇っていながらさらに上を目指していると知って驚きましたが、これから日本の技術を世界に広めることにも繋がると思います。関の刃物は地元の人達でこれからも守っていくべきだと思います。

武藤日向



ツヴェリングヘンケルス関工場 福田刃物工業

福田刃物工業製品の試し切り

二つの会社には違った考えも同じ考えもあり、1日のうちに二つもの異なった意見を聞いたことはとても貴重な体験となりました。

僕らのグループは、関市の刃物を世界に売り出す、というテーマでSGH研究を進めています。そこで、非常に興味深かった事は、グローバルゼーションという点において二つの企業で意見が異なったということです。ツヴェリングヘンケルスは、世界の他支社、あるいは世界の刃物・キッチン会社をライバルとしていて、また売り込む対象も主にお金持ちとしているそうです。反対に、福田刃物は世界への展開は考えておらず、ライバルは他の国内の企業であり、主に業者などに対して売り込みを行っているそうです。

確かに、会社の規模や思想など、そもそも異なる要因はありますが、それでもこれほど正反対の意見が出たことに、興味を惹かれました。

江川大祐

ツヴェリング JA ヘンケルスを見学して感じたのは、お客様のニーズに応えることへの意識の高さです。買った人に完璧な品質の商品を届けたいという思いがとても伝わってきました。不良品を見せていただいた時、私はどこに傷があるのかわかりませんでした。そのくらい小さな傷も見逃さないところにツヴェリングのこだわりを感じました。

福田刃物では実際に刃物を使ってマガジンを切らせていただきました。綺麗に切ることができ、技術の高さに圧倒されました。社長さんの話では就職の際などに役立つ貴重な話を聞いて良かったです。今日学んだことをSGHの研究に役立てていきたいと思います。

佐藤杏海

刃物産業は分業制が基本ですが、ツヴェリング JA ヘンケルスでは一つの工場でほとんどの工程を行っていると聞きました。しかも、機械をほぼ使わず手作業で作っており、細かいところまで気を使っているからこそ最高級の製品が出来ると思いました。

福田刃物では、手作業は少ないものの社内一貫生産で行っており、全ての工程で細部までこだわることが出来ると感じました。また、働く人が少ないながらも確認作業に人をできる限り割くからこそ質を上げ続けることが出来るのだと思いました。

私は、今回の見学を通して、細かいところまでこだわると、質の良いものが出来ると改めて感じました。勉強も同じことが言えると思うので、こだわり続けていきたいです。

藤井彩乃

今日の見学で特に印象的だったことは、関市にある大半の刃物工場は様々な作業を専門としており、最終的にそれらの部品を合わせて刃物を完成させる分業制を採用しているが、ヘンケルスにおいてはハンドルの材料選び、設計、組み立てから、切れ味のよい刃の部分まで、全て行う一貫生産を取り入れていることです。そのため工場にはたくさんの職人さんがおり、さらに新人を育成していることがわかり、とてもいい会社だなと思いました。ツヴェリングはドイツの会社のためデザインも海外仕様のものがあり、ハンドルも外国人好みのものと日本人好みのものがあることを知りとても勉強になりました。以前からヘンケルスのマークのついた商品をお店とかで見かけることがあったので、今日、その仕組みや工夫、作られる過程を見ることが出来てとてもいい体験をすることが出来ました。

福田将太郎